

付着生物ラーバ情報

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ、キヌマトイガイ 表1 ラーバ等の出現状況

ラーバは見られていません。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは小湊沖で7.5個体/m³見られました。

(3) オベリア類 (クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません。

(4) アミクサ (海藻、通称クサ)

小枝は見られていません。

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ
久栗坂沖	H30.10.3	0.0	0.6	0.0	0.0
小湊沖	H30.10.9	0.0	0.0	0.0	7.5
川内沖	H30.10.3	0.0	0.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

単位: 個体/m³

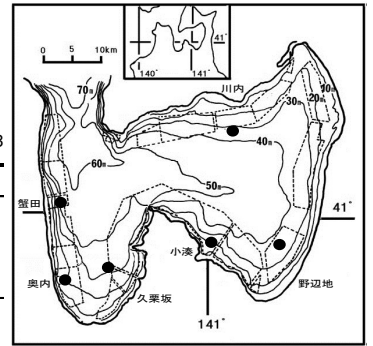


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵します。現在、陸奥湾内の中層の水温は20℃台になったので、**これからラーバの出現と付着が増加**していくものと思われま。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着する**ことが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイは7月までラーバが出現していたので、稚貝分散時に小さい個体が見られる可能性があります。今後、秋から冬生れのラーバが付着するものと思われま。

オベリア類、キヌマトイガイ、アミクサの付着は年明けになるものと思われま。

3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数 (久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数 (蟹田、奥内、久栗坂)、12月～翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上であればラーバ (クラゲ) 累積出現数が多くても付着量が少ない**ことが分かりました (図4)。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃です。

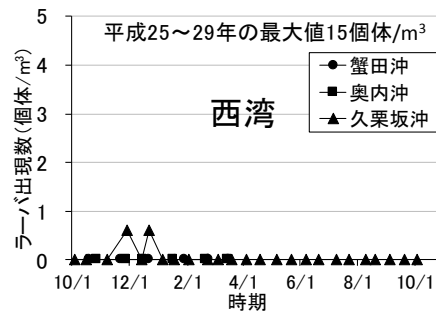


図2 ヲレボヤラーバ出現数の推移 (平成29年10月～平成30年10月)

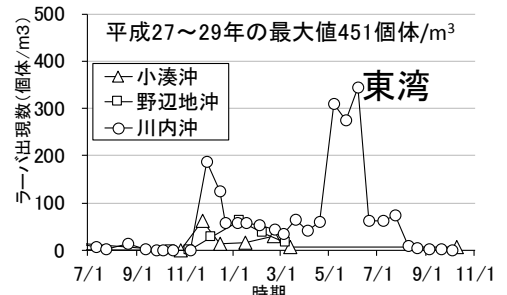
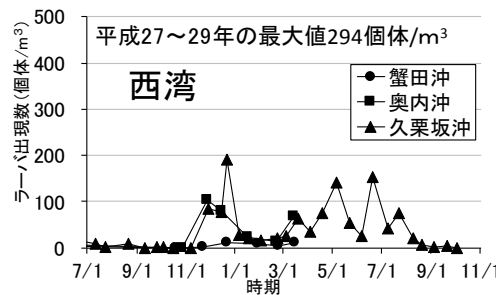
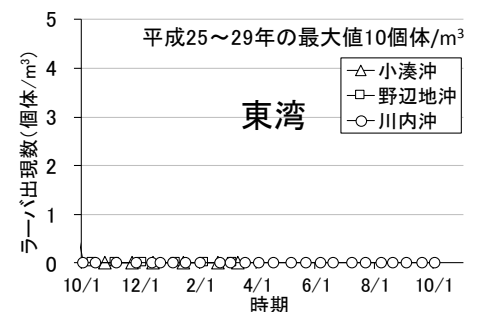


図3 ヲサキイガイラーバ出現数の推移 (平成29年7月～平成30年10月)

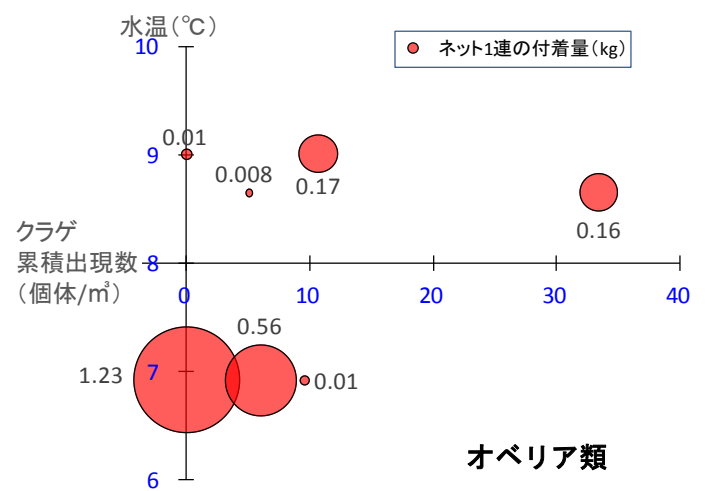
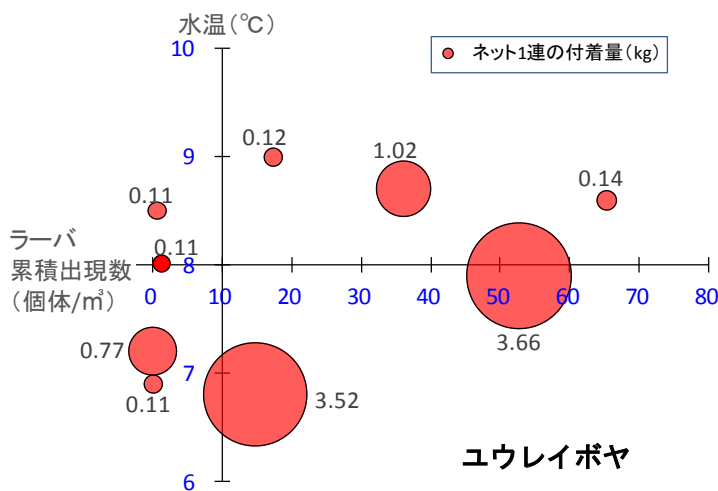


図4 西湾におけるユウレイボヤのラーバ (左図) とオベリア類のクラゲ (右図) の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係 (○印の中心はプロット位置、面積は付着量)

